

7 調査の正確性及び信頼性を確保するための措置

これまでの結果をふまえ、調査の正確性及び信頼性を確保するための措置として、次の措置を図る必要がある。

死亡損失の評価においては、確率 CV 法が確立した手法であるが、抵抗回答・非理解回答については、シングルアンサーによる選択肢設計を行うことで、正確な有効回答の判別が必要である。

また、対象財を『保険料』とする場合、事故の想定状況や実商材である保険（生命保険等）によるバイアスがかかる可能性があるため、事故状況を詳しく説明する等の措置や、生命保険等の加入状況等の設問の追加措置が必要である。

さらに、リスク削減率を提示する際、複数のリスク削減率のパターンの存在を、より明確に回答者に意識させるよう、図などを交えた説明を行う措置が必要である。

一方、負傷損失の評価においては、負傷状態のバリエーションを回答者に提示した上で、回答者に死亡状態との順序付けを行わせる等の措置が必要である。

また、確定 CV 法では、一定額以上の支払意思額の推計は困難であることを前提とし、軽い負傷状態にのみ適用することが望ましい。

また、調査全体のボリュームとしては、本プレ調査の構成（死亡損失の設問 1 問と負傷損失の設問 1 問に、個人属性に関する諸質問）で、比較的受け入れられていることから、長文による前提理解が必要な設問は、同程度若しくは若干程度増やずに留めることが必要であり、過負荷なボリュームでは、回答の正確性が下がる懸念があることに留意する。